

令和7年度 松本市差別撤廃人権擁護審議会 会議録概要

- 1 開催日時 令和7年11月26日（水）午後2時～3時
- 2 開催場所 Mウイング3階 3-2会議室
- 3 出席委員 市村はる美委員、猪又竜委員、小椋早希子委員、勝野おき江委員（オンライン）
川上正彦委員、鈴木孝明委員、砂山誠委員、高木美好委員、中村哲司委員、
林淳子委員、樋口公昭委員、深井久仁彦委員
- 4 欠席委員 石坂清子委員、大久保秀樹委員、佐々木保好委員、近松知志子委員、
平谷哲司委員、布野竹二委員
- 5 事務局 住民自治局長（齋国人）、人権共生課長（松本志保）、
人権共生課職員（山本、小山、上條）
- 6 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 変更委員の紹介
 - (4) 議事
 - ア 松本市人権関連施策について（令和6年度事業実績・令和7年度事業計画、実績）
 - イ 第4次松本市多文化共生推進プラン（案）について
 - (5) 閉会

○ 議事ア 松本市人権関連施策について（令和6年度事業実績・令和7年度事業計画、実績）

<会長>

ただいまの事務局からの説明に、ご意見や質問のある委員の方はお願ひいたします。

<委員>

松本市の行政を担っている方たちに、インクルージョンがどういう状態なのか、正しく知っておいていただきたいというのが私の願いです。

インクルージョンというのは、人をカテゴライズしないことです。障がい者とか健常者とか、男とか女とかブラックの方とか、LGBTQの方とか、カテゴライズしないことです。

あなたはどういう人か、あなたが自分らしく生きるにはどうしたらいいということを考えるという状態が、インクルージョンになります。今、松本市のいろいろな課の取組みを聞きましたが、人をカテゴライズしていると。

カテゴライズしている状態は、インクルージョンのひとつ手前です。

インテグレーションの状態は、カテゴライズした上で、世の中でうまく包摶していきましょうという考え方で、インクルージョンには到達していません。

大事なのは、人をカテゴライズするという状態は、差別が発生する状態ということです。

カテゴライズすることが差別につながるということを職員の皆さんのがわかった状態で、まだインテグレーションの段階で最終的な目標を持って施策を行っていくことになります。

このような理解を拡大するために、私の講演を使っていただけませんかという提案をしています。

つづいて、避難所になっている学校の体育館が車椅子で入れない件です。

大規模改修工事のときにコンクリート製のスロープを作るということは理解できますが、災害は今この瞬間にあるかもしれないのにポータブルスロープを置いておこうという発想がないのが問題だと思います。

避難所の近隣に車いすで生活している高齢者がいるのに、体育館に避難できない状態があることをわかっていないくてはいけないと思います。ポータブルスロープの設置を予算化していくかなければならぬと感じています。

<会長>

その他にご質問、ご意見等はございますか。

<委員>

部落解放研究集会のことについてお願いをしました。以前は審議会のメンバーの皆さんを中心に参加をして学習をしてきました。最新の学習をしていただく良い機会ですので、ぜひ大勢の皆さんに参加をしていただきたいと思います。

<会長>

その他にご質問、ご意見等はございますか。

<委員>

情報発信についてですが、人権啓発に関する情報を松本市の公式のLINEに出していますか。

個人的な考えですが、ホームページは記録媒体で、情報発信の候補にはならないと思います。

LINEから人権啓発に関する情報をホームページに載せたというリンクを送ればいいと思いますし、それに加えて紙媒体で読みたいという人もいらっしゃるので、選択ができればいいと思います。

<委員>

松本ヒューマンライツフェアが令和6年12月14日に開催されて、参加者は74名とあります。

須坂市の人権イベントでは200人以上が参加していました。広報の仕方とか必要な方に情報が届くかとか、あとはアクセシビリティやYouTubeライブ配信など、いろんな手法が考えられると思いますので、ここは少し考えていきたいという感想を持ちました。

<会長>

その他にご意見ご質問等ございますでしょうか。（意見なし）

○ 議事イ 第4次松本市多文化共生推進プラン（案）の概要について

<会長>

ただいまの説明について、ご意見ご質問のある委員はよろしくお願ひいたします。

（意見なし）

○ 議事終了後

<副会長>

人権関連施策に対する質問の際、スロープの件で避難所の話がありましたが、松本市の避難所というのは、学校の体育館や地区の体育館です。

このような避難所はスロープに限らず非常に劣悪な状態です。能登地震の際には、女性の性被害も発生しました。松本市の危機管理部で、35地区の避難所を見直していただき、地区や、センターではなく、危機管理部が主体性を持って、避難所の快適性、機能を向上させていただきたいと思います。

避難地震はいつ来るかわかりませんので、こういうことは強く要望したいと思います。

以上